

# NGN 標準化に寄与する NTT コムウェア

ITU-Tを中心にNGNの標準化が加速している。NTTコムウェア研究開発部は、NGNのベーシックアーキテクチャの勧告草案に貢献するなど、NGNの標準化に積極的に取り組んでいる。以下、2004年12月以降のNGN標準化に関連するNTTコムウェアの活動を紹介する。

## NGN Focus Group/SG11/SG13 でのNGN標準化活動

NTTコムウェアは、ITU-T内に特別に設置されたNGN Focus Groupにおいて勧告草案“NGN Release 1 Requirements”のエディタを務めている他、NTTコムウェアがベースラインドキュメントを提供している勧告草案“NGN Release 1 Scope”についてもドキュメント作成に貢献している。2005年に入ってから、3月、4月、6月、8月、11月と連続して会合が行われ、NTTコムウェアからは主に関係する2つのドキュメントへの寄書を継続的に提出しドキュメント作成に貢献した。NTTコムウェアのNGNへの貢献が認められ、加瀬一朗取締役研究開発部長がSG11の日本代表団団長に任命されている。

NGN Focus Groupは、11月に開催された第9回会合を最終回として終了したが、“NGN Release 1 Requirements”、“NGN Release 1 Scope”については、十分な改版作業が行われ、内容的にもStableなものとして完成し、NGN Focus Groupの最終プレナリでの承認を得ている。NGN Focus Groupで承認されたドキュメントは正式にSG13に送付され、SG13でドキュメントの勧告化に向けての具体的承認作業に入ることになる。次回のSG13全体会合は2006年1月に予定されている

が、ドキュメントの勧告化作業が開始されるとともに、次のNGN検討のステップの議論が進められることとなる。またSG11では、NGN Focus Groupでの成果を受けて、2006年以降、具体的なプロトコルの検討作業が開始されるものと思われる。

NGN Focus Group 終了後の後継機関としてNGN-GSI (NGN Global Standards Initiative) が発足することとなっているが、これはITU-TにおけるNGNの検討スピードを衰えさせることなく、関連性の高い複数のSG・課題が横断的に連携するためのもの。正式なSG全体会合の他、中間会合を行いNGN Focus Groupと同等の活動を行うことになっている。

NGN Focus Groupでは、FMCとTriple Playという大きな目的があったが、NGNのコアをIMSベースにすることで、FMCについてはある程度の目的を達成したものの、Triple Play向けのブロードバンドや放送サービス等への対応については今後も継続して検討していく必要があり、信号方式なども含めた検討が必要となってくるものと思われる。

今後のNGN関連の会合予定は以下のようになっており、NTTコムウェアはNGNのRequirementsの勧告草案のエディタとして継続的に貢献していく予定である。

- ・ 2006年1/16～27 SG11/SG13全体会合
- ・ 2006年4/20～27 Workshop on NGN及びNGN-GSI神戸
- ・ 2006年7/17～28 SG11/SG13全体会合

今後はNTTコムウェアとしては、NGN-GSI/SG11/SG13において引き続きNGNの標準化に向けて、NGN要求条件文書のエディタや、SG11/SG13に向けた寄書提出など、貢献を行っていく予定である。

## その他の標準化関連の活動

NTTコムウェアは、オペレーション関連の標準化に向けても取り組みを開始している。SG4の藤井副議長 (NTTサイバーコミュニケーション総合研究所) 及びNTT各研究所などとも連携し、SG4での標準化活動やマネジメント関連のフォーラム活動にも取り組みを開始している。2005年9月にはSG4全体会合にも参加し、日本代表団の書記として貢献している。また、2005年11月のWSISチュニス会合へ研究開発の最新成果を出展しVIP、メディアを含め多くの注目を集めたほか、IEEE Communications Magazine (10月1日発行) へ、“NGN Release 1 Requirements”の概要記事を執筆している。